

俺って鉄ちゃん？

川上 宏



テレビの旅番組。レポーターがローカル鉄道のひなびた駅舎から中継している。駅周辺の豊かな自然や観光スポットを紹介していると、やがて列車がゴトゴトゆっくり、ゆっくりやってくる。「ちやうど私が立っているホームに、今電車が到着しました。降りてくる客はというと地元の方がふたり、そして観光客らしい四〇五人のグループ……。

なんか変だぞ。架線も張っていない線路をどうやって電車が走ってくるのだ。だいいち、車両にパンタグラフがないではないか。電車と言わず、「気動車」とか「ディーゼルカー」っていつてほしいなあ。おばあちゃんが電車や気動車のことを「汽車、汽車」っていうのは、微笑ましくて全然抵抗ないけど、れっきとしたNHKのアナウンサーも平気で間違えるから、どつとしらけてしまいます。

それから一両で走ってる気動車を「列車、列車」っていうのもおかしい。複数の車両が連結されているから列車なのであって、一両だけの車両を列車というのは、ひとり旅の若者をつかまえて「そのアベックさん」とか「団体さん」

なんて呼ぶのと同じくらいヘンテコリンな使い方だと思うのです。

幼い頃、男の子ならどなたも経験したことがあるかとおもいますが、近所の子供たちと電車ごっこをして遊びました。荷造りで余った縄や、なわとびで使った紐をまるい輪にして「♪運転手は君だ、車掌は僕だ、あとのふたりは電車のお客♪」とかなんとか歌いながら狭い庭を走り回ったのですが、ここでも疑問が……。

電車ごっこというからには架線とパンタグラフは絶体に必要というわけで、電柱と電柱の間に一本のロープを張り、架線にしました。そして一番背の高いトオル君に運転手になってもらい、頭頂部をパンタグラフに見立て、集電しながら走ってくれるよう頼みこみました。

最初は応じてくれましたが、トオル君の頭が絶壁で、頭頂部にロープを接触させて走るのはいかにむつかしく、また馬鹿々々しさに気付いたのかトオル君、自分たちを引き連れてどこかに行ってしまうました。

残されたのはわたしと妹だけ。妹に頼んで車

掌になつてもらい、わたしが運転手兼パンタグラフになりました。ロープは強めに張って、下からロープを頭で持ち上げるように走るとうまくいきました。わたしは完全に電車になりきって、有頂天になつたまではよかつたのですが、ロープによる擦過傷で頭頂部が腫れあがり、親には呆れられると同時に怒られ、散々な目に遭つてしまいました。

電車ごっこに対して汽車ごっこという遊びもあります。私が生まれた昭和二十年代はまだまだ蒸気機関車が全盛で、上野駅の十三番線、十四番線にはD51やC62が停車していたのをしっかりと覚えています。

今では観光のための運用になつてしまった蒸気機関車ですが、両腕を主連棒にみたて、シユツシユポツポと前後に往復させて、汽車を真似る動作は今でも健在です。

気になるのは両腕の動かし方です。はっきり言いますが、みな間違っています。一般の蒸気機関車は左右にシリンダーを二対持つていて、シリンダー内で往復するピストンの力を、動輪の回転運動に変換しているわけです。

片方のピストンがシリンダーの端までいってしまうと、そこが死点となつて回転が止ま

てしまうため、左右のピストンシリンダーは左右の動輪に位相角度が、九十度のズレがあるように設計されているのです。

だから、汽車ごっこで両腕を前後に振る時も同じタイミングでなく、右腕と左腕、位相のズレを意識してずらして動かさないと、汽車は止まつてしまうのです。

もちろん、幼少の頃はそのことを知らずに、腕を同時に動かして遊んでいました。それを知つて以来、ときどき幼稚園で汽車あそびをしている園児たちを目にすると、保母さんに「腕の振り方、まちがってますよ、こうやって右腕と左腕にタイムラグをつけて、ずらして振るようご指導ください」とアドバイスしたくなるのですが、怪しい人と思われかねないので、いつもじつと踏みとどまっています。

結婚後しばらくして妻から妊娠を告げられました。男子だったら〇〇、女子だったら△△といろいろ候補を考えましたが、結果第一子は女の子だったので、第一志望は「あずさ」か「みずほ」、第二志望は「あさひ」か「あき」という名を提案。将来の大和撫子にふさわしい和語からの命名であると説得しましたが、「なにそれ特急列車？」とこちらの魂胆を見破られ、か



ないませんでした。

その後、長男に恵まれた時は「はくと」や「つばさ」を候補にあげましたが、前科もあつてすぐに見破られてしまいました。

NHKに松田利仁亜というアナウンサーが実在しますが、テレビでお目にかかった時は、さすががあつた名前だと心の中で喝采を叫

びました。

ちなみに、高校時代のクラスメイトKには、あずささんとさくらさんという名の娘さんがいます。奥さんとは、学生時代、鉄道旅行中にユースホテルで知り合ったそうで、うらやましいかぎりです。

我が長男については、真岡線、秩父鉄道、上越線、磐越西線、大井川鉄道など各地の蒸気機関車や、いろいろなイベントに引つ張り回しましたが、中学生になってから、部活で野球をするようになると、残念ですが鉄道には全く興味を示さなくなりました。

銀行などの四桁の暗証番号は機関車と関連づけてつけています。流麗な美しさから貴婦人と呼ばれたC57からは4577(シゴナナ)、または4157、小海線で活躍した高原のポニーことC56から4569、4156、最強最速の旅客用SL、C62から4692、4162、C55からは4155、タンク機関車C11からは、4111、4011、大正時代の名機は8620、9600等々。

以上は機関車の形式番号ですが、さらに形式番号に車両番号を組み合わせることで、8620(一号機)、8621(二号機)、8622(三

号機)とバリエーションが一挙に広がり、リスク回避のための番号の変更も抵抗なく行えるようになりました。そしてA銀行は貴婦人のC57シリーズ、B銀行は8620、郵便局はC62と大枠を決めておけば、番号を忘れたときの手掛かりにもなります。

ただ最近、古稀を過ぎてから物忘れがひどくなり、暗証番号の手がかりを探すため、ATMの前でスマホを操作していると、銀行員の方が親切にとんできて、

「お客さん、それ振込詐欺です！振り込んで駄目です！」

